「鈴鹿市の戦争遺跡保存・平和利用する市民の会」会報
2021年4月23日　第34号

「負の遺産」を見つめ 平和を願う 若い人たちにつなぐ

開会あいさつ　第４回 桜の森公園 春まつり 実行委員長　竹内 宏行

ただいま，すばらしいオープニング演奏をしてくれましたのは，鈴鹿医療科学大学の吹奏楽部の学生さんたちです。初めて春まつりに参加していただきました。学生のみなさん，校舎に入るとき右手に見えるモニュメントはいったい何だろうと不思議に思っていたそうです。参加をきっかけに，大学や公園を含む一帯に，かつて旧海軍の航空隊があったことを知ってもらえたら，うれしく思います。

鈴鹿市は昭和17(1942)年12月に，白子町と神戸町の２町，12の村が合併して誕生しました。軍事施設をスムースにつくるための大合併でした。中でもこの公園一帯は鈴鹿市の誕生の出発点になったところです。この地にまず鈴鹿海軍航空隊ができたのです。それから鈴鹿川をはさんで南側に海軍の施設，北側に陸軍の施設ができました。広大な市域の１割近くをこうした軍事施設が占めました。まさに軍都として誕生したのです。

最初に軍事施設ができたところだと言いましたが，実はここは巨大軍事施設が最後まで残っていたところでもありました。この鈴鹿海軍航空隊跡地は戦後，電信電話公社（のちのNTT）に払い下げられ，社員の教育をする電気通信学園なりました。その敷地の一角に，つい最近まで飛行機を収納する巨大な格納庫が３棟も残っていました。署名運動もして保存を訴えたのですが，ちょうど10年前の2011年３月，取り壊されてしまいました。

このままでは歴史の証人が忘れ去られてしまうと，募金を集め彫刻家の 三村 力(つとむ) さんにお願いして創ってもらったのが，モニュメントです。「地・空」と名付けた格納庫と飛行機と平和の輪をイメージした作品です（※８ページに　画像・説明があります）。きょうはあの巨大格納庫がどこにあったか，確かめていただく「タイムトラベルウォーク」を初めて企画しました。

戦争は人殺しです。平和な時代に人が人を殺せば殺人罪に問われます。しかし，国同士が戦って人をたくさん殺しても罪になりません。それどころかたくさん殺せば，手柄になったりします。先の大戦で，日本人だけで310万人が亡くなりました。日本が侵略したアジア全体ではざっと2000万人が犠牲になったといわれます。この鈴鹿の地からも多くの若い人たちが戦地に向かい，命を失いました。鈴鹿海軍工廠で造った機銃と弾薬で多くの人が殺されました。軍都というのはそうした「負の遺産」を背負っているのです。

本日のライブには，活躍するベテラン演奏家とともに，鈴鹿医療科学大学のダンス部，そして三重大学のアカペラサークルも初めて参加してくれます。また，鈴鹿を拠点とする女子ハンドボールチーム「三重バイオレットアイリス」の若手スタッフも準備を手伝ってくれました。平和あってこその音楽，芸術です。平和あってこそのスポーツです。あの悲惨な戦争の時代を思い起こしつつ，本日の春まつりを存分に楽しんでいただけたらと思います。

医療科学大の吹奏楽部とダンス部が初出演
♫♪♬　三重大アカペラも　♫♪♬

春まつりのライブには，オープニング演奏の鈴鹿医療科学大学 吹奏楽部はじめ，同大 ダンス部，三重大学 アカペラサークルの学生たちが参加してくれました。

鈴鹿医療科学大学 吹奏楽部

11 人の部員で「ふるさと」「敗けないで」など４曲を披露した吹奏楽部の 渡辺 紫史(しふみ) さんは「緊張しましたが，みなさんに聴いてもらう機会はあまりないので，いっぱいの人に見てもらってすごくよかったです」，三重大学アカペラサークルの仲野 水萌(みなも) さんは「桜が舞う中で歌わせていただくことができ，とても気持ちよかった。イベントの開催もむつかしい時期ですが，音楽の力を実感できるよい機会になりました」。

ダンス部の 生川 陽乃香(ひのか) さんは「いつも以上に地域の人との繋がりを感じました。練習で桜の森公園を利用させていただくことが多いですが，練習の場が発表の場になり，沢山の方々に見ていただけて大変楽しかったです」，最初に歌ったライブのとりまとめ役，青井 カズノリ さんは「年齢の高いアーティストと若いアーティストの共演。そして，ギター，三線の弾き語り，ダンス，吹奏楽，さらになかなか聴くことがないアカペラグループとバラエティーに富んだライブができました」と話していました。

鈴鹿医療科学大学 ダンス部

三重大学 アカペラサークル

初めて開催したタイムトラベルウォーク

この地に広大な海軍航空隊があったことを体感するために現地見学会を開催しました。

コロナ禍のため今までの行事をできなくなり、代わりに何をするかを考えて出されたアイディアでしたが「災い転じて福となる」。とても良い取り組みを創ることができました。最初は参加者が自由に歩いて見学するウォークラリーを目ざしましたが、スタッフの負担と不安を考えて初年度の今年は全員で一緒に見学することにしました。

①モニュメント 正門と番兵塔

私たちが建てたモニュメント前からスタート。モニュメントに込められた意味や思いを説明しました。

また、移築された正門と番兵塔では古写真と比較して、元の位置とかなり変わっていることを説明しました。今の姿は当時のものではないと理解することは大切です。

航空隊当時の正門と番兵塔（古写真）

現在の正門と番兵塔

②号令台

かつて号令台があった所は盛り土されてソーラー施設になっています。道路をはさんだ北側にはコンクリート基礎が残っています。第一兵舎のものである可能性もあり、これから調査していきたいです。

コンクリート基礎跡

③格納庫

格納庫があった場所は宅地化されていますが、道路の向きや交差点が格納庫の位置とほぼ一致しているので、格納庫がどこにあったのか、そしてどれだけ巨大だったのかを追体験することができました。

案内の桐生さんが当時の格納庫やその内部の写真を準備して下さったので、格納庫のイメージを現地でつくることができました。まさにタイムトラベルウォーキングでした。たまたま「今日は何ですか？」と声をかけて下さった団地の方に「実は昔ここに…」と10年前の様子をお伝えすることもできました。

第３格納庫の東端部で

④コンクリート製基礎

最近確認されたコンクリート基礎です。航空隊の射撃場の南端に当たり、射座（銃を撃つ所）があった所です。

まだ戦争遺跡かどうかも不明ですが、コンクリートの様子が戦争当時の建造物と似ています。射座の一部の可能性もあるので、これから調査していきたいです。

⑤コンクリート階段

旧射撃場の北にあるコンクリート製の階段です。戦争遺跡なのか、戦後の電通学園当時のものなのか、詳細は不明です。

ご存知の方がみえましたらご連絡下さい。

この階段を最後に桜の森公園に戻りました。ちょうど1時間のコースでした。参加者は29名でした。初めての取り組みだったため、準備や運営にたくさん課題も見つかりましたので、さらに改善して来年につなげます。

感想から（一部）

○今日、はじめて、せんそういせきを見ました。自分の近くにかくのう庫があるなんてしらなかったので勉強になりました。これから、せんそうについて勉強したいです。

○前に来たときは一人だったので、何があるのかわかりませんでしたが、今回のタイムトラベルウォークで何があったのかが、よく分かりました。

○格納庫跡地の紹介、とても興味深く聞かせてもらいました。写真等を使いながらわかりやすい説明でした。ありがとうございました。

○実際歩いてみて、当時の建物の大きさや道など色々知る事ができ、とても良い経験になりました。想像しながら聞いていました。

戦後76年

鈴鹿の住宅街や公園

タイムトラベルウオーク

薄れる記憶 遺跡に思い

射撃場跡に現存するコンクリート構造物を見学する参加者＝鈴鹿市で

太平洋戦争中、海軍の航空隊や基地だった鈴鹿市白子町、南玉垣町で三日、市民ら三十人が今は住宅街や桜の森公園になっている現地を散策し、戦後七十六年がたち記憶から薄れつつある歴史に思いをはせた。

「鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会」などでつくる実行委員会が「タイムトラベルウオーク」と題し、初めて催した。

航空隊は一九三八～四四年ごろ、航空兵を養成した後、実戦のための基地になったとされる。一行は一時間ほどかけて現地を歩き、かつて練習機などの巨大な格納庫五棟が並んでいた住宅街を訪れた。

参加者は付近の三カ所に現存する古いコンクリート構造物の一部分も確認した。現在、一帯では基地の出入り口を監視した番兵塔と正門が戦争遺跡として保存されているだけで、市民の会スタッフの桐生小百合さん＝同市南堀江＝が「射撃場の（弾を撃ちだす）射座や兵舎の基礎部分の可能性がある」と説明した。

参加した地元の四十代主婦は「小学校の授業で戦争中、海軍の施設だったことを聞いた」という。主催者の実行委員長で元朝日新聞記者の竹内宏行さん（七〇）＝同市寺家一＝は戦争末期、市内では陸軍北伊勢飛行場や鈴鹿海軍工廠など市域の一割以上に陸海軍の施設が立地し「軍都」と呼ばれたと説明。「負の遺産を後世に伝えていくため、現地を歩く催しを続けたい」と話した。（酒井直樹）

中日新聞 21.4.4.

石薬師射撃場跡を見学　30 人が参加
市制記念日の講演会と写真パネル展

市民の会は市制 78 周年記念の戦争遺跡写真パネル展と講演会を，２月 13 日，鈴鹿市石薬師町の石薬師公民館で開きました。市制記念日に合わせて毎年催していますが，コロナ禍のため 12 月の予定をこの日に延期。併せて公民館近くにある石薬師射撃場の見学会を初めて実施しました。

中森 成行・共同代表が「住んでいる人たちと地域の歴史をいっしょに考えていきたい。近くに佐佐木信綱記念館もあり，次の世代に文化のバトンタッチをしていければ」と開会のあいさつ。市民の会世話人の 桐生 小百合 さんが軍都として誕生した鈴鹿市の歴史を述べ，「地元で『えせび谷』とよんでいた谷あいを利用して陸軍第一気象連隊の射撃場ができた。銃座から的まで 300 ㍍。８基ある銃座はきれいに残っており，梅の木が植わっています」とこの射撃場について話しました。

射撃場は公民館から西へ歩いて 10 数分。コロナ禍の人数制限のなか，約 30 人が参加されました。梅日和のもと，銃座から監的壕まで，みなさん，興味深くご覧になられました。

鈴鹿市一宮町の男性(88)は「12 歳年上の兄が気象連隊にいた。女房の実家が石薬師なので，石薬師にはよく来るが，この射撃場は初めて見た」。同市東旭が丘から来た男性(69)は「おそらく父はこの気象連隊で勉強したと思う。シンガポールへ行ってすぐ終戦になった。30 年前，65 歳でなくなったが，当時のことはいっさいしゃべらなかった」という。石薬師町の女性(81)は「家が料理屋をしており，兵隊が寄宿していた。終戦直後しばらくは気象連隊に兵隊が残っており，夜，芝居を見に行ったことがある」と話していました。

戦争遺跡の写真パネルは，鈴鹿海軍航空隊，鈴鹿海軍工廠の海軍関係，北伊勢陸軍飛行場，第一気象連隊，第一航空軍教育隊などの陸軍関係，合わせて約５０枚を会場の壁に展示しました。

鈴鹿の射撃場跡 後世に

戦争遺跡見学会に30人

鈴鹿市石薬師町に残る太平洋戦争中の陸軍の射撃場跡で十三日、見学会があった。谷間に隠されるように造られ、戦後七十五年がたち地元でも存在が忘れられつつあることから、住民団体「鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会」が催し、三十人が参加した。（酒井直樹）

梅林の中に整然と並ぶコンクリート製の銃座＝鈴鹿市石薬師町で

市民の会が講演会「地域の宝に」

中日. 21.2.14.

一行は、的を狙うためのコンクリート製の銃座八基が、梅林の中に整然と並んでいる様子を観察。生い茂った樹木や雑草をかき分け、三百㍍先の的を置いた台座や、的に着弾したかを確認するため掘られた溝「監的壕（かんてきごう）」にも足を延ばした。

地元公民館で講演会もあり、市民の会スタッフの桐生小百合さんが、射撃場跡が約一・五キロ離れた今の県消防学校、石薬師高校付近に立地していた第一気象連隊の関連施設とみられることを説明。市内に鈴鹿海軍工廠（こうしょう）など多くの軍事施設が造られ「軍都」と呼ばれたことも紹介した。

こうした施設跡は戦後、ホンダ鈴鹿製作所、イオンモール鈴鹿などに変わり、射撃場跡はほぼ完全に残る数少ない施設。参加した地元の女性（七〇）は「戦後、畑になり、地域では『射撃場』と呼ばれている」と話した。市民の会の共同代表で元市考古博物館長の中森成行さん（七二）＝同市十宮（とみや）三＝は「長く保存して鈴鹿の宝になれば」という。

鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会

第１３回　総会

◎ と き　　2021年5月29日(土) 午後2時から

◎ ところ　　ジェフリーすずかホール

■ 第１部　　総会議事

第１号議案　　2020年度活動報告

第２号議案　　2020年度会計報告、会計監査報告

第３号議案　　2021年度役員選出

第４号議案　　2021年度活動計画

第５号議案　　2021年度予算

■ 第２部　記念講演

講師　　三重文学協会 会長　藤田　明 さん

演題　　小津 安二郎・竹内 浩三と戦争

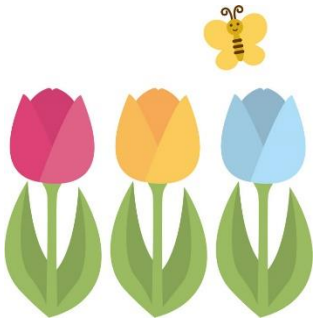
《藤田明さんの略歴》

1933年東京生まれ。大戦末期に東北へ疎開，さらに津市へ疎開，以後，三重県人になる。長く高校で国語教師を務め，のち高田短大で教える。文学関係で新聞に連載。著書に「三重・文学を歩く」。映画関係のエッセーも多数。著書に「平野の思想　小津安二郎私論」。三重文学協会会長。

モニュメント「地・天」

制作者は 三村 力 氏
2015 年に完成
上の部分は戦闘機が旋回
しているイメージを表現
下の部分は格納庫の
イメージを表現
真正面から見ると
上の部分は重なり
円に見える

平和の環を表している



▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△
発　行　鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会
代　表　竹内　宏行・中森　成行
〒510-0254　鈴鹿市寺家 1-2-47
電話　059-388-6508
Mail　ta818hi@mecha.ne.jp
△▼△▼△▼▼△▼△▼△▼△▼△